

## 事例 初等教育の改善

西アフリカにあるN国は世界最貧国の1つです。国土の3分の2はサハラ砂漠が占め、内陸国で産業に乏しく、乾燥した土地では作物もあまり育ちません。教育の状況を見ると、初等学校の就学率さえ非常に低くなっています。1990年に「EFA (Education for All)」が国際会議で採択され、初等教育の必要性が国際社会で強調されるようになりました。N国でもEFAの目標達成に向けた「教育開発10か年計画」を2003年に策定しました。2004年当時、初等教育の就学率は52%、女子は40%にも満たなかったのです。

N国のT州にあるD村の様子を見てみましょう。

- ムサ 「僕、もう学校行くの嫌だよ。狭い教室にぎゅうぎゅう詰めに座らされて、この暑さの中で授業に集中なんてできないよ。椅子はガタガタするから座り心地悪いし。それに先生が黒板に書いている字を写していただけだよ。良く分からないことをただノートに写して暗記して。こんなことして何になるの？ノートを他のことに使ったほうがいいよ」
- アリ 「僕もそう思うよ。1時間歩いて学校に来たのに、今日も3人の先生のうち2人もお休み。先生が3人とも学校に来ていた日なんて、1か月に一度くらいだよ。どうして休みばかりなんだろう？ちゃんと勉強したいのに。。」
- ムサ 「知らないのか。先生たち、他の仕事をしているよ。ムクタール先生は自動車修理の仕事だよ」
- アリ 「そうなんだ！でも、どうして先生たち学校で働かないで、他のことをするんだろう。僕たちの授業態度が悪くて嫌なのかなあ。。」

ムクタールは同僚のグメルと話していました。

- ムクタール 「今月も給料が遅れるそうだよ。先月分も、その前の月の分も支払われていないから3か月も無給状態だよ。これでは食料も買えない。州から住居は提供されているけれど、他の住民と違って農家じゃないから畑もないし、自給自足もできない。この村に親戚もないから農作物も分けてもらえないし、困ったものだ。子ども達に教えるのは好きなんだけど、私も家族を養わないとならないからな」
- グメル 「全くだよな。授業を休んで他の仕事をするのは良くないと分かっているけれどな。せめて州から最低限の食料の配布くらいあればなあ。そうしたら給料が遅れていても、なんとか他の仕事をしなくても授業を続けられるよ。子ども達に良い教育を与えたいなあ」
- ムクタール 「そういえば、明日は公務員組合でストライキを実行することに決まったって。私たち教員は教育省の前に集合して州政府の庁舎までデモ行進をするらしい」
- グメル 「3か月に一度のイベントになってきたな。きちんと毎月の給料を支払ってくれば、私たちだって、毎日授業をするし、他の仕事をする必要もないし、子供のたちに質の高い授業をできるように研究する時間だってもてるのに。。」

N国では学校教育の改善のために、「学校運営委員会」を各村に設置することになっています。教員や教育行政官、保護者など学校に関わる人々で構成され、学校の問題を話し合う場となるはずでしたが、保護者や住民の意見が反映されていないようです。

D村の住民たちがおしゃべりしています。

オマル 「また先生たちのストライキがあるらしいよ。授業はすすまないし、子どもが学校にいる時間が無駄だよ。学校に行っても先生がいなくて自習。それなら片道1時間かけて学校に行かなくても家で自習すればいいし、畑の手伝いをする時間もできる。学校に子どもを送らなくてもいいんじゃないか。義務教育なんていうけどさ。何も学んでいないよ」

アフマド 「学校運営委員会が私たち保護者の意見をちゃんと聞いてくれるのならなあ。先生たちが学校を休んでばかりという問題は以前も学校運営委員会で取り上げたんだがなあ」

オマル 「学校運営委員会なんて、全く役に立たないよ。どうせ村長の弟が代表で、行政官と好き勝手なことをしているだけだ。そうさ、どっかの国からもらった補助金の半分を村長の弟と行政官で山分けしたって聞いたよ」

アフマド 「そんなことがあったのか。補助金で2クラス分の椅子と机を購入したって聞いたし、実際、先日学校を見に行ったら、ちゃんと新しい椅子と机があったよ。うちの娘も喜んでいたし。でも息子のクラスは古い椅子と机で勉強できないって言ってたな。」

オマル 「補助金の全額がいくらだったか、運営委員会で言わなかっただろう。だけどA村は補助金で教室を2つも増設できたそうだ。だから、この村もそのくらいの額の補助金をもらっているはずだ。それなのに、椅子と机しか買えないはずないだろう」

アフマド 「全くひどい話だ。村長の弟も教育行政官もお金に困っていないだろうし、何に使うんだろうな。教室を増設すれば、子どもたちも、ぎゅうぎゅう詰めの教室で授業を受けなくてもいいし、そうさ、そのお金で教員に給料の代わりに当面の食料を買うこともできたかもしれない。」

オマル 「私たちがもっと学校の運営に意見を言えればいいのになあ。。。」

村長の弟と教育行政官は真剣な顔で話しこんでいます。

村長の弟 「また教員のストライキだな。教員の給料をちゃんと毎月支払うように、州政府に強く言ってもらえないか。これでは、うちの村の子どもたちが教育を受けられないよ」

教育行政官 「州政府には進言しているんだがなあ、、、私を含めて州の公務員の給料も滞っているんだ。教員だけじゃない。州政府から中央政府には予算をちゃんと割り振るように何度も言っているよ。だけど、なかなか予算を回してもらえないんだ」

村長の弟 「本当は、教室を増設したかった。子どもたちが、ぎゅうぎゅう詰めの状態で授業を受けているのは何とかしないと。だから保護者や村のみんなに、教室を増設するための泥レンガ造りと、教室の建設への労働力の提供を呼びかけたんだ。だけど、誰も手伝ってくれなかった。仕方がないから、2クラス分の机と椅子を買ったよ。残りのお金はまだ銀行に預けてある。いつか村人が教室増設に協力してくれるなら、その時に使いたいな」

教育行政官 「村人はなあ、彼ら自身学校教育をまともに受けていない。だから教育の大切さが分かっていない。女子に教育はいらな思っている村人もたくさんいるし、男子でも教育はいらなと言い出す奴もでてきているし。この村はダメだな」

村長の弟 「そんなことを言わないでください。私がもう一度村人を説得して、教室増設に協力してくれるように話してみます」

教育行政官 「最近、学校運営委員会にも村人の出席が少ないじゃないか。これでは次の補助金はもらえなくなるぞ」

質問1 D村の小学校には、どのような課題があるでしょうか？

質問2 挙げられた課題の原因は何ですか？

質問3 あなたが JICA の専門家として、この村の初等教育を改善するプロジェクトを任されたら、どのような活動をしますか？質問1に挙げた課題ひとつずつに対して、対応策を考えましょう。